

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



# 「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和5年11月24日（金） 発行人：校長 森内 秀学

## 地域でこそ育つ力 あります

世の中は昨年度まで、コロナで様々な活動が制限されてきました。したくてもさせたくてもできなかったため、「失われた3年」などと呼ばれることもありました。しなかったことで取組自体を見直し、新たな発想を添加するきっかけになった部分もあったでしょうが、そこで失われかけた人とのつながりや、事業継承のノウハウ、開催への意欲などは、復活させるのに大きなエネルギーが必要だったはずです。

そんな中、校区内の元村二地区では、大きな行事が立て続けに行われました。



まずは、11月19日（日）の文芸祭。子どもの龍踊も披露されました。演奏は終始子どもたちです。その仕上がりは、演技指導や所作指導、衣装合わせまで、ご指導された地域の方の苦勞がしのばれる立派なものでした。

また、目の前で、「僕もやりたい！でも、子ども会入っとらんもん…」とつぶやく子どもに対し、「よかよか、来年来たらおじちゃんが教えてやっけん！」と応じるやりとりもあっていました。分け隔てなく子どもを育てようとする地域の温かさに触れた思いでした。



左は、お約束のアンコール「もってこい！」。投げ入れられた手ぬぐいを運よく拾った子どもたちが、それを頭に巻いてコールをあおっていました。その場その場でも出番をもらい、注目を浴びる楽しさを味わっている子どもを見ながら、「地域の教育力」というものについてしみじみ考える部分がありました。

そして右は、11月23日に行われた、4世代交流のグランドゴルフ大会。一桁から80代までの方がペアになり、交代で打ち進める方式でした。

こうした異年齢とのふれあいの中で得る感覚は、学校だけでは身に付かないものです。故郷の大切さや支え合って生きることの大切さを実感し、地域を創る立派な大人に成長することを望みます。

